



かわら版

富士見

ほりゆーぶ : ㄥ

発行者：社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会

特別養護老人ホーム望みの門富士見の里

所在地：〒299-1607 千葉県富津市湊 701

TEL 0439-70-6500

富士見の里から皆さんへ
「宜しくお願ひします」

かわら版「富士見」は、富士見の里での生活ぶりや、施設サービスを利用するうえで大切な情報をお知らせするために創刊いたしました。施設での関わりの中で起こった出来事をそれぞれの立場から愛情とユーモアを交えてご案内致します。また、今後の行事予定などもご案内していきますので、宜しくお願ひします。

生活の一コマから 簾 昭博

先日、ある女性の入居者さんから「石焼き芋が食べたいよ」と言われました。その方によると、吹かした芋と石で焼いた芋では全然違うのだそうです。確かに、近隣のスーパーに行くとき季節を問わず石焼き芋の装置が入口に鎮座しており、芋の香りがかなり広いスペースに漂い、人を引き付けています。個人的には、サツマイモへの特別な執着はなく、貰えば食べるという程度で、買ってまで、ましてや自分で調理してまで食べようと思ったことはありませんでしたが、どれほど違うものか、一つ試してみようじゃないかということ、準備を始めました。今は大変便利な時代で、インターネットでキーワードの「石焼き芋」といわれるだけで、石焼き芋に使う道具の

紹介や購入の仕方、更には作り方まで簡単に情報が手に入ります。ネット購入した石焼き芋用の加熱しても割れにくい医王石（戸室石）を土鍋に敷き、持参のバーベキューセットの上で加熱。程よく熱くなったら芋を並べ一時間半。施設の食堂前からよく見える庭で、さながらデモンストラーションといった感じですよ。火から外しておおよそ二時間、土鍋と石に余熱調理をまかせ、私は入居者さんと庭の草むしり。石焼き芋のご要望をいただいた女性入居者さんを師匠に、頃合いを見ていただき合格。あめ色でホクホクの石焼き芋ができ大変満足されていました。

特養に於いて、入居者の方と触れ合いながら一緒に作業することはあまりないこと。開設間もなく状態の軽い方がいたからこそ出来たことかもしれません。ささやかではあっても、入居されている方々が少しでも満足いただけるのであれば、小さなご要望にも耳を傾けて一緒に思い出を重ねていきたいと思えます。

1階介護だより

白井 寛人

一階では共同スペースが大きく、様々な行事を行っています。

今回、八月に行われた「納涼祭」と九月に行われた「敬老会」の様子について紹介させていただきます。

八月には「納涼祭」が行われました。ボランティア「やよいの会」の皆さんをお呼びして、踊りと太鼓の出し物をやって頂きました。特に踊りは利用者様も参加され、とても楽しんでもらえたようです。またお昼には出店を模した催しも行われ、焼きそばやお好み焼き、フライドポテト、スイカやバナナがふるまわれました。またかき氷やジュースもあり、ジュースの中にはノンアルコールビールがあり、皆さんこぞってビールを頼んでいました。納涼祭は多床室とユニット合同で行われ、数少ないユニットの利用者様との交流も行われ、楽しんでいただけたようです。

九月に行われた「敬老会」では、みなと幼稚園の幼児さんをお呼びして、普段あまり接する事がない小さな子どもたちとの交流を楽しんでいらつしやいました。幼児さんは利用者様の肩を叩いたりしてくれ、利用者様も「孫と触れ合っているようだ」と話しており、とても貴



重な時間を過ごすことができました。

また八月から、一階多床室ではハンドベルサークルを始めました。始めたばかりで、利用者様も職員もまだまだうまくいかない事がたくさんあり、試行錯誤を繰り返しています。が、少しずつ上達しています。

十二月の法人クリスマス会での発表を目指し、これからも練習を続けて行きたいと思っています。

2階悠ユニットだより 「生活リハビリを積極的に」 小林 逸美

富士見の里には三つのユニットケアがあります。ユニットケアは、一つのユニットに十人の少人数で家庭的な雰囲気の中でその人に合ったケアを行っています。三つのユニットにはそれぞれ個性があります。そして取り組んでいる事も各ユニットで違います。

私が勤務している悠ユニットは生活リハビリに力を入れています。自分で出来る事は自分で“一見当たり前の事かも知れませんが、利用者の方には、それがとても難しい事なのです。私たち介護員が介助に入ればいいだけの事で、時間も早く楽かもしれません。

でも、それでは利用者様の為にはなりません。筋力がどんどん低下してしまう一方です。食事の下膳や洗濯物をタンスにしまう、その何気ない動作が大事なのです。だからと言って、十人居る利用者様、全員に同じ事をしてもら

っているわけではありません。それぞれの利用者様の体調にあった生活リハビリを行っています。

九十四歳の車椅子に乗っている方は自力で立つのは難しく、パジャマに着替える時に介助をしなければなりません。でも両手は使えるので、ズボンには介護員が介助し、お手伝いしますが、上着はご自分で時間をかけて着替えています。ボタンも自分で、はめていきます。



また、九十六歳の方で認知症が進んでほとんどの動作に介助が必要な方がいます。しかし、食事はご自分でお箸を使い召し上がっています。でも食事を提供してもすぐには召し上がってくれません。食事が来たことを認識していないからです。食べてもらう為に、声掛けをして食事の介助をします。初めに介助をすることでご飯を食べている事を認識し始め、自然とお箸に手が伸びて、ゆっくりとご自分で召し上がる様になってくれます。

このように着替えてボタンをはめる、お箸を使って食べる、この何気ない動作の一つ一つが生活リハビリなのです。そして、当たり前前の事が出来るという事が幸せな事だと私は

思います。

これからも、生活リハビリを積極的に取り組んで皆様に元気で過ごせてもらえるように支援していきたいです。

2階雅ユニットだより

齊藤 あや子

雅ユニットの夕食は時間になると自動的に共同スペースに来られる方、声掛けや介助にて集まる方が全員が一緒になって、音楽を聴きながらゆつくりと召し上がります。

食べ終わると、自立されている方は居室に戻りテレビなどを見ながら就寝準備をされ、介助が必要な方は職員がお手伝いをします。

夕食の片づけがひと段落する頃ナーズコールが鳴り、「私、夕飯食べていない様です」と話される方がいます。これは、ある九十歳になられる認知症を患う方からの空腹の訴えです。少し前に食べられたことはお話ししますが、それでも「ひもじい」と話されるので、お菓子やお茶を召し上がって頂きますが、感情が高ぶり、一人の寂しさや食べたことを忘れた自分に対し、情けない、恥ずかしいと嘆き、更に悲しくなって涙を流されます。そんな時私たち職員は、傾聴しながら、精神的な不安を取り除けるように声掛けを繰り返して対応をしています。そうしている間に少しずつ落ち着き始め、ご本人の口から、「九十歳を過ぎた

おばあちゃんだから仕方ないわねー。子供に返るってよく言うものね。」と、ご自分の頭をポンと叩いて笑顔が戻り、「これで安心して眠れるわ!」と部屋へ戻られます。部屋へ戻られると、日記を書いたり、読書をしたりしてから休まれます。又、とても明るく優しい方で、よく洗濯物を畳んだり、テーブル拭きを進んでして下さいます。職員が声をかけ編み物をされたり、廊下を歩いて運動をされたり、仲間の方から誘われて、トランプ遊びや会話を楽しんで、目を輝かせる一面も見せて下さいます。生活面においてはほぼ自立された日々を過ごされていますが、食べたことや話されたこともすぐに忘れてしまい、食事を食べていないと言う訴えは毎日のようにあります。みやびユニットには他にも数名の認知症の方がいますが、更に増えていく病に私たち職員もそれぞれの利用者様の立場に立って、その人に合った対応が求められると思います。残された能力への働きかけや個人の尊厳を守り、その人らしい生き方のお手伝い、介護の基本を心において頑張っております。又、一日も早く医学の進歩があり、画期的な事が起こる事を祈り願う者の一人です。

2階和ユニットだより

「入居者様と職員の日々」

白井 政子

富士見の里が二十四年七月に開設されその

二か月後の九月に和ユニットがオープンしました。早いもので二年が過ぎようとしています。

当初は入居者様もまばらで職員もユニットに慣れていない為コミュニケーションもうまくとれませんでしたが少しずつ試行錯誤を行いながら現在に至っています。和には富士見の里最高年齢の九十九歳の方(現在入院中)もおおり介護度も高い方が多いのでほぼこちらのペースで生活の場を営んでいます。常日頃よりまめな声掛けを心掛けちよとした変化がないか注意しています。入居者ご自身からの要望も無い方が多いので余暇の過ごし方として毎日はこちらが午後歌の会を開いてナツメロの歌集を作り歌を唄って過されています。唄えなくても手拍子を打ったりして笑顔も見られ私達もホットします。また和でおやつ作りをしています。ホットプレートで鈴カステラや焼きそば作りなども積極的に参加され楽しまれています。

先日は昼食ににぎりぎりを職員がにぎり(数名の方が一緒に作る)提供しました。が殆どの方が手に持ち完食されました。これからもこのような機会を増やし、和



“らしい生活を一緒に送って行きたいと思えます。”

健康管理室だより 川名 とし子

平成二十四年七月一日、当施設は開設され早二年が経過致しました。健康管理室担当の私共は、入所されました利用者皆様の日々のお世話と、定期受診、健康診断、インフルエンザ予防接種、肺炎球菌ワクチン接種等計画と実施を担当しております。日々の関わりの中で問題が発生致した時にはその都度、利用者様の状況を出来るだけわかり易くご説明致し、問題解決の為の方法については、ご相談とご意見を頂きながら進めてまいりました。個人差はありますが、この頃、余暇を利用してレクリエーションに参加され、気分転換等出来ております。ご家族様には健康管理面で何かとご協力を頂き感謝を申し上げます。

～インフルエンザ予防接種のお知らせ～

日時 平成二十六年十月二十九日

場所 一階・二階・三階ホール

対象 入所者全員・職員全員

詳細につきましては健康管理室までお問い合わせください。

今後ともご指導とご協力の程宜しくお願い致します。

厨房だより 安藤 美和子

暑かった夏も終え、朝晩は急に涼しくなってきました。皆様、体調管理には十分気を付けて生活してください。

「実りの秋」「食欲の秋」とも言いますが、秋はいろいろとおいしい食材が旬をむかえます。皆様の大好きなサツマイモを含む芋類、栗やマツタケなどのキノコ類も旬です。

旬の食材はおいしいだけでなく、栄養価も高く、体の健康のリズムと密接な関係にある様です。

秋には、冬に備えて脂肪の多い木の実や魚が旬を迎え、夏に弱った胃腸を整える作用がたくさんありますので、旬の食材を豊富に取り入れ、季節を感じられる様な食事をご提供していきたいらと考えています。

現在、厨房職員は、私を含め男性2名、女性6名の8名で構成されています。

経験豊かな職員が多く富士見の里に配属されましたので、摂食障害・嚥下障害とこの施設の問題が多数ありますが、ご利用者様のご家族になった気持ちで、より良い食事を作る努力をしていきます。

そこでご家族様にお願ひですが、ご利用者様の好きな食べ物や料理の仕方がありましたら教えて頂きたいと思ひます。皆様のご意見、ご要望を参考にさせて頂き今後の食事に少し

でも反映していけたらと考えています。

厨房職員全員で食べる意欲を引き出し、いけるような、おいしい食事をこれからも作っていきますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

事務所だより

飯田 篤史

『配水管改良工事が実施されます』

先月より、月に二～三回ではありますが、原田医院を目印に曲がり、富士見の里にあがってくる道が配水管の工事のため通行止めとなっております。

富津市の水道部によると、平成二十七年三月中旬まで行われる予定で、工事が行われる日は、国道一六号から湊ひかり学園に入る道側から来所していただかなくてはなりません。

富士見の里に来所される際は、電話にて工事の有無を確認してからお願ひ致します。

また、湊ひかり学園側からの道は狭く、見通しもあまり良くありませんので、徐行してお進みください。

暫くの期間、大変ご迷惑をおかけ致しますがご協力の程お願ひ申し上げます。

